

東海地方	1名	近畿地方	1名
中国・四国地方	1名	九州・沖縄地方	1名

- 平成26年度オープンキャンパスは、平成26年7月19日と20日の2日間実施し、参加者数は881名(前年比+76名)であった。また、本年度は慈恵祭に合わせ、11月8日にミニオープンキャンパスも開催し、参加者は238名(前年比+27名)であった。
- 受験生の確保を目的に、学外で開催された14箇所の大学ガイダンス等に教員・学事課職員が参加した。
- 高等学校3校(田園調布学園高等部、東洋女子高等学校、都立府中高校)へ訪問し、模擬講義を行なった。

Ⅲ. 国家試験

1. 看護師・保健師国家試験

第104回看護師国家試験は、平成27年2月22日(日)に、第101回保健師国家試験は、平成27年2月20日(金)に実施され、その結果が3月25日(水)に発表された。看護師国家試験は20期生39名が受験、38名が合格(97.4%)し、保健師は20期生39名と既卒1名の計40名が受験し、全員が合格した。

なお、全国の看護師国家試験合格率は90.0%、保健師国家試験合格率は99.4%であった。

Ⅳ. 学生生活アドバイザー

平成21年度より、学生生活をより豊かなものとするため、学習上や生活上の悩みを気軽に相談できる学生生活アドバイザー制度を導入した。1、2年生を対象とし、比較的若手の教員が5～6名の学生を担当し、前期・後期それぞれ1回の交流活動の他、適宜自由に活動を行なった。学生アンケートの結果は好評であった。

Ⅴ. 進路指導関係

学生への進路指導については、早期から担当教員が個別面談を実施するなど、きめ細やかな対応を行った。また、ナース就職支援室と協力し、分院の見学バスツアーを行うなど、慈恵への就職指導にも力を入れた。

平成27年3月卒業生39名の進路の内訳は、次のとおりであった。

本学附属病院への就職	28名
進学	3名
保健師として就職	1名
他病院就職	6名
その他	1名

(3) 大学院

1. 医学研究科博士課程

平成19年度より大学院改革を実施し、以後大学院の改善充実化を図るため種々検討を重ね、平成26年度は以下のとおり実施した。

1) 研究助成制度の運営

平成22年度の経常費補助金特別補助の大幅な見直しにより、大学院生に対する大学院研究助成金と大学院教員に対する医学研究科研究推進費の助成制度が廃止された。本学では研究の充実化と活性化を堅持するため平成26年度は以下のとおりとなった。

① 大学院研究助成金

- ・平成26年度採択件数：27件

② 医学研究科研究推進費

- ・平成26年度採択件数：新規3件、継続1件

また、臨床医学講座に所属する教員と基礎医学講座もしくは総合医科学研究センターに所属する教員が臨床医学における新たな研究の展開と技術開発に関する研究シーズを共同で探索し、次年度に科研費等の外部競争的研究資金を獲得することを目的とした東京慈恵会

医科大学萌芽的共同研究推進費を平成25年度より創設した。

③ 萌芽的共同研究推進費

・平成26年度採択件数：新規 5 件

2) がん治療医療人養成コース

高度ながん医療を実施できる国際的な視野をもったがん専門医を養成するため、社会人大学院生を対象とした「がん治療医療人養成コース」を既存の悪性腫瘍治療学の授業細目に組入れて、募集を行った。志願者：0名

3) カリキュラム内容の検証

- ・社会人大学院生のニーズにより、平成23年度から共通カリキュラムにe-learningシステムを利用した「疫学・臨床研究」の科目を導入し、実施した。履修者数16名さらに、CITI Japanによるe-learningシステムを「医の倫理」の科目に導入した。
- ・大学院共通カリキュラムの特別講義では、新任の教授だけではなく、本学で活躍している若手研究者を講師として講義を行った。

平成27年度の大学院（博士課程）入試は2回実施し、1回目は平成26年10月4日に、2回目は平成27年1月24日に実施した。その結果、28名（うち社会人5名）が合格した。本学の大学院生は本学の各講座、総合医科学研究センターのみならず、大阪大学、九州大学、東京医科歯科大学、早稲田大学、愛知医科大学、東海大学、日本医科大学および国立国際医療センター、国立成育医療研究センター、東京医療センター、再生医療センター、国立感染症研究所など国内外の様々な大学、研究所でも広く研究を行っている。

2. 看護学専攻修士課程

平成26年度も継続して安定的な運営と各委員会との連携を密にして効率的運営に努めた。

1) 大学院教員へFaculty Developmentの実施

大学院・看護学科共催FDは看護実践能力の重要な要素であるリーダーシップについて看護経営学の視点で考察し、自分自身のコンピテンシーを高めることを目的に、8月7日（木）に開催した。

講師：松村啓史先生 テルモ株式会社 取締役副社長

講演テーマ：「ドラッガーとナイチンゲールに学ぶ愛と希望の看護」

日時：平成26年8月7日（木）10時から

2) 研究助成制度について

院生に対する教育研究助成は、大学院研究助成制度による使用分と研究指導費による助成により、活動の範囲や内容を高めることを図った。大学院研究助成制度による研究助成採択者は9名。

4) 入学試験について

入学試験は、募集を平成26年8月1日（金）～8月30日（土）間に行い、出願資格認定試験を平成26年9月9日（火）、入学試験を平成26年9月13日（土）に実施した。

その結果、11名の応募があり、6名が合格した。

合格結果を踏まえて、入試委員会で検討を行った結果、二次募集を実施することとした。

募集を平成26年10月30日（木）～11月15日（土）間に行い、出願資格認定試験を平成26年12月7日（日）、入学試験を平成26年12月14日（土）に実施した。

その結果、5名の応募があり4名が合格した。

5) 修了生について

平成23年4月入学院生1名、平成24年度入学生3名、平成25年度入学生8名の合計12名の修了式を平成27年3月24日（火）に挙行了。

6) 教育課程の評価と改善

院生による授業評価については、講義終了後に科目責任者と院生が講義内容について話し合いを持つ方式に改め4年目を迎えた。次年度担当教員の変更等への評価をもって改善が速やかにできた。

また、院生の学修時間確保の観点から、平成27年度より、母子健康看護学分野・看護管理学分野・地域連携保健学分野は、特論Ⅰ～Ⅲ、演習Ⅰ～Ⅲ構成を、特論Ⅰ～Ⅴ、演習Ⅰと科目構成を変更することとした。

7) 専門看護師認定試験

専門看護師教育課程を受講して本年に1名が専門看護師認定試験を受験し合格した。(分野は急性・重症患者看護分野で1名)

6) 慈恵看護専門学校の状況

看護専門学校学生数(平成26年5月1日現在)

	学生総定員数	1学年定員数	1年生	2年生	3年生	計
	人	人	人	人	人	人
慈恵看護専門学校	300	100	104	102	113	319
慈恵第三看護専門学校	150	50	63	49	48	160
慈恵柏看護専門学校	240	80	83	83	87	253
計	690	230	250	234	248	732

(1) 慈恵看護専門学校

I. 教学関係

1. 学校運営に関する会議

- ① 慈恵看護専門学校運営委員会は校長、副校長、教務主任、事務長の4名をもって構成され、定例として毎月1回開催されている。
- ② カリキュラム運営委員会は副校長、教務主任、カリキュラム委員6名で構成され週1回開催されている。
- ③ その他の会議は、教員会議・教職員会議が隔週で開催されている。

2. 教学関連の主な事項

- ① 平成26年度1年生(65期生)104名、2年生(64期生)102名、3年生(63期生)113名、合計319名で新学期をむかえた。
- ② 平成26年度オリエンテーションは4月7日から4月28日にかけて、学校生活を円滑に送ることができるようガイダンスが行われた。この間に上級生との交流する機会も持った。オリエンテーションの一環として1年生を対象に防犯対策講習、防災訓練を実施した。
- ③ 授業・実習評価アンケート
学生による授業・実習評価アンケートを基礎、専門基礎分野、専門分野のうち臨地実習の科目で実施し、結果について該当講師へ報告した。
- ④ 終講試験
9月の終講試験より同時出題方式(本試験・再試験・追試験)の試験出題依頼を実施した。講師の了承を得られ概ね順調にスタートした。
- ⑤ 平成26年10月23～24日、3年生の学外セミナーを実施した。「ケアの本質」について話し合い、看護についての学びを深めた。
- ⑥ 平成26年12月15日には東京都看護協会主催の看護学生看護研究学会(文京シビックセンター)に3年生が参加した。本学の学生2名(口述、示説)が発表した。
- ⑦ 平成26年3月10日3年生の看護観発表会を開催した。
- ⑧ 平成26年3月14日に東京慈恵会総裁寛仁親王妃信子殿下ご臨席の下に、63期生の卒業式が挙行政され、102名が卒業した。

II. 入学試験

1. 平成27年度入学試験は次のとおり実施した。

- 推薦・大学卒選考〔一次〕平成26年10月22日(水) 〔二次〕平成26年11月8日(土)
- 一般選考 〔一次〕平成27年1月21日(水) 〔二次〕平成27年1月24日(土)